



大和会だより

大和会の理念

「生命の尊厳と人間愛」

基本方針

1. 私たちは、利用者さまの権利を尊重し、誇りと責任を持って「利用される方がたのために」を心がけます。
2. 私たちは、急性期医療から在宅介護まで一貫して、常に温かく、質の高いサービスをめざします。
3. 私たちは、保健・医療・福祉水準の向上のため、専門知識の修得や技術の研鑽につとめます。

患者さまの
権利と責任

1. 公正な医療を受けることができます
2. プライバシーが尊重されます
3. 医師による説明を受け医療行為を選択することができます
4. 医療の内容を知ることができます
5. 病院の提供するサービスに意見を述べるすることができます
6. 病院の規則を守り医療に参加し協力する責任があります

36

2004(平成16)年

11月24日発行

安心できる心臓疾患の治療のために 「心臓血管センター」を開設

当院では平成16年10月1日より、東大和病院心臓血管センターを開設しました。

そこで今号では、センター長である心臓血管外科の山口明満医師に、心臓血管センターの紹介をしていただきます。



館林医師 山口医師 湯田医師

心臓血管センター開設の目的

はじめに自己紹介をいたします。私は1981年東海大学を卒業したのち、東京女子医大胸部外科に入局、胸部全般のトレーニングを受けました。1983年7月より国立大阪病院心臓血管外科で手術習練に励み、1988年には米国ユタ州のLDS病院で手術経験を積み、1996年12月より医真会八尾総合病院心臓センター外科部長、2002年1月より葉山ハートセンター副院長を務め、本年10月1日、当院心臓血管センター開設とともに赴任いたしました。また私と同時に、大阪医科大学胸部外科より湯田淳医師も着任され、加えて当院で以前より頑張っておられる館林孝幸医師の3名で心臓血管外科チームを作りました。2人とも臨床経験豊富な心臓外科医であり、強力なスタッフを

整えられたと自負しております。

心臓血管センターは循環器内科と心臓血管外科で構成され、日本人の3大死因の一つである心臓病に対し、積極的に内科的・外科的治療を行う目的で設立されました。

心臓血管外科とは何か

それではここで、心臓血管外科についてご説明します。

…「心臓までは直線距離にして、わずか2,3センチしかないのに、外科医がこれに到達するまでには2千4百年もかかった」。

これは1902年にボストンの或る外科医が、実

験と観察の長く困難な道が終わり、心臓外科が誕生した際に述べた言葉です。

このように昔は、心臓にメスを入れることは大変な作業でした。しかし、心臓外科のこの 2～30 年の発展は特にめざましいものがあり、手術器具の開発・改良、人工心肺の改良、心筋保護法の発展等で、現在では極めて安全に開心術を行うことができるようになりました。

今日、心臓血管外科では、内科的治療で根治できない心臓疾患に対して、定期的手術と緊急手術で積極的に心臓血管外科治療に取り組んでいます。それらは、先天性心疾患(心房中隔欠損症、心室中隔欠損症など)、後天性心疾患(心臓弁膜症、虚血性心疾患、心臓腫瘍など)、大血管(胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離など)、末梢血管(閉塞性動脈硬化症など)等に対する手術です。

術後リハビリ、社会復帰を考えた手術

心臓弁膜症では高齢者の増加とともに、単に金属弁を選択するのではなく、患者さまの社会的背景をも考慮し、生体弁の選択、さらには弁形成術の導入をはかっています。虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術では、患者さまの生活の質の向上を長期にわたってはかるため、積極的に動脈グラフト(内胸動脈、胃大網動脈、橈骨動脈等)を用い、質の高い手術を目指しています。最近の開心術では胸骨縦切開をせず、左第4肋間の小切開や、胸骨右側を数センチ(約 10 ㌢)切開するのみで手術を行ったり、人工心肺を使用せず心臓が動いたまま手術を行うことができ、このことが患者さまの術後リハビリ、社会復帰に多大な貢献をしてくれるものと思っています。

短時間で心臓手術が受けられます

現在、当院での心臓弁膜症に対する人工弁置換術の平均手術時間は 154 分です。また虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術は、使用するグラフトの種類によりますが平均 185 分程で、術後 3～4 時間程で気管内挿管は抜去可能です。このよう

に極めて短時間に手術が可能となった理由のひとつに、術中の心筋保護法の改良があげられます。以前は、体外循環も心筋保護液も冷却し、軽度低体温にて手術を行っていましたが、現在では体外循環は冷却せず、心筋保護液は血液心筋保護液を使用し、ほぼ常温に近い温度で手術を行い好結果につながっています。また可能な限り術前自己血貯血を行い、積極的に無輸血開心術を目指しています。

最良の医療を提供してまいります

ここで一言付け加えますと、心臓手術の必要な患者さまは最初から心臓外科の診察室をノックしません。まず地域の病院、開業医の先生方より循環器内科へご紹介いただき、それから適応患者さまが外科に回ってこられます。そこで心臓血管センターでは、先ず心臓専門の循環器内科医が診察・検査を行い、外科適応となれば私たちに連絡がまいります。このように心臓血管センターでは、車の両輪のように循環器内科の協力のもとに、内科・外科が一致協力して最良の医療を提供しようと心がけています。

最後になりますが、心臓血管外科では皆様方の信頼のもとに手術を希望していただけるよう、また皆様のご期待に添えるよう病院スタッフ一同身を引き締めて診療にあたってまいります。これからもよろしくご協力をお願いいたします。



冠動脈バイパス手術を行う山口医師(中央上)とスタッフたち

新任医師のご紹介

現在の職業を志望した理由やきっかけは何ですか？
 出身地はどちらですか。また自慢できる食べ物や名所は？
 趣味や現在興味を持っているものなど教えてください。
 専門分野を教えてください。



山口 明満 (心臓血管センター長)



単に“外科医になりたい”
 と思っておりました。
 本籍地は東京ですが、大阪での生活が長く、言葉が変です。
 スキューバダイビング
 (趣味が高じてインストラクターです)
 心臓血管外科
 冠動脈バイパス術、弁置換形成術、大動脈外科、左室形成術、不整脈手術、内視鏡の手術

湯田 淳 (心臓血管外科)



中学2年生の頃、腎臓病で長期入院した経験があり、将来医師になり病気で困っている人の役に立ちたいと思ったから。
 京都府 寺社仏閣全て
 釣り、スポーツ、読書
 心臓血管外科

小田切 恵三郎 (耳鼻咽喉科)



医療は人間愛の象徴と思ったため
 鳥取県
 ・21世紀になっても20世紀なし
 ・地方によって名の違う松葉ガニ
 ・仮面ライダー(1号)のロケ地となったことのある鳥取砂丘
 生活に追われています
 耳鼻咽喉科一般

吉村 直子 (消化器科・外科)



子供の頃から外科医になりたいと思っていました。三つ子の魂...でしょうか。
 東京都 国立市 景観の良い大学通りが自慢です
 旅行・ピアノを少々
 日本外科学会認定医
 腎臓移植、肝臓移植の勉強をしてきました。

今回のテーマは『おさかな』です

[解答は4ページの下に]

1. 美しく泳いでいる魚は、なあに？
2. 靴を履くと暇になる魚は、なあに？
3. 冷や汗をかいている魚は、なあに？
4. すわるのがきれいな魚は、なあに？
5. 自動車となかよしの魚は、なあに？



なぞなぞ コーナー



福祉サービス第三者評価を受審しました

東大和ケアセンターでは東京都社会福祉協議会と契約し、9～10月にかけ「福祉サービス第三者評価」を受審しました。これは皆様にご提供している当施設の介護サービスを第三者の立場で客観的に評価してもらい、その結果を基にサービス改善に繋げていくものです。評価項目はケアに関する事その他、利用手続きから施設運営まで多岐に渡り、利用者ヒアリング 職員アンケート 訪問調査等を通して評価が出されます。結果は12月中旬にインターネット上でも公開されます。公開先:とうきょう福祉ナビゲーション <http://www.fukunavi.or.jp>

自衛消防操法大会が開催されました

10月15日、東京経済大学村山校舎にて、北多摩西部消防署が主催する「自衛消防操法大会」が開催されました。大和会からは女子隊として、指揮者・安藤 雅美さん(老健 ケアワーカー) 1番員・牧野 香絵さん(医療連携センター)2番員・原島めぐみさん(透析センター 看護師)が選ばれました。忙しい勤務の合間を縫って練習を続け、当日は機敏で立派な操法を披露してくれました。3名の方々、ご苦労さまでした。



第9回東大和病院救急症例検討会が行なわれました

10月29日(金)東大和病院7階会議室にて、救急隊の方・職員を対象とした救急症例検討会が行なわれました。演者は大高先生、演題は「脳梗塞について」です。多数の質疑応答が交われ、充実した検討会となりました。第10回となる次回は12月13日(月)、心臓血管外科の山口明満先生を演者に迎え行ないます。



お知らせ

年末年始休診について

平成16年12月30日(木)～平成17年1月3日(月)までの期間、救急外来を除き外来診療は休診とさせていただきます。

第3回糖尿病教室が開催されます

第3回目の糖尿病教室が11月27日(土)午後2～4時、7階会議室で行われます。快適な生活のために専門家がアドバイスを致します。ご希望の方は、病院受付予約センターでお申し込み下さい。

栄養一口メモ

旬の食材：きのこ・食用菊

きのこの効能：「きのこ」特有の - グルカンという多糖類には、免疫機能を高めてがん細胞を防ぐ作用があります。また、ビタミンDが豊富に含まれカルシウムの吸収率を高めるため、骨粗しょう症などを予防します。



食べ方：緑黄色野菜やビタミンEを豊富に含むナッツなどと組み合わせると、「きのこ」に少ないビタミンが補えます。また、「きのこ」の成分とビタミンの相乗効果で抗酸化作用が高まります。

食用菊の効能：「食用菊」にはカルシウム・鉄・ビタミンB1・B2が多く含まれ、栄養的に優れています。



食べ方：酢の物やお浸し・汁の実・天ぷらなどの料理方法があります。

(栄養科 管理栄養士 宮野 励子)



わが街の
お医者さん

ひらつか
平塚耳鼻咽喉科医院

平塚 英雄先生
(耳鼻咽喉科)
- 東大和市 -



平塚先生は、昭和56年東京慈恵会医科大学卒業後、同大学耳鼻咽喉科学教室に入局しました。そして平成元年に耳鼻咽喉科専門医を取得してまもなく現在地で開業しました。

「父がずっとここで耳鼻科をやってましてね。時々手伝ってはいたのですが、父の病気を機に平成元年7月から引き継ぐことにしました。」

待合室に上がると光沢のあるフローリングと木目のはっきりした壁板が目に入ってきた。ログハウスの中にいるようで、木々を映したやわらかい日差しが床に反射してきらきらと眩しい。目を閉じると暖かい室内にふわふわと包み込まれるようで心地よい。お母さんの膝の上にちょこんと座り、熱心に絵本を指差す小さな子。飽きてしまったのか、めくれたお腹を気にもせず、背もたれ椅子と戯れている元気な子。診察室の奥ではコンコンとかわいい咳の音がする。

「8年前に一部をリフォームしました。ほんとうはおやじの建てたものなので壊したくなかった。何もかもそのままにして使いたかったんですが、所々がたが来てまして仕方なく・・・。」

診察中の先生は、時間の許す限り簡潔明瞭で必要十分な説明を心がけている。また、お子さんには恐怖感を抱かせないよう気を使っている。待合室には先生が自身のお子さんを抱っこして診察椅子に座り治療を受ける姿勢の写真が貼られている。

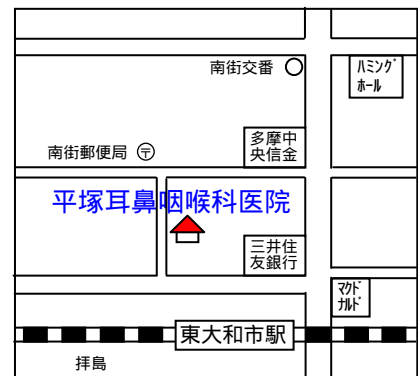
「お陰様で医療事故もなく今日に至ってます。それには医療連携が大切ですね。東大和病院には精査や重症の患者さんを紹介させてもらって助かります。欲を言えば紹介の手続きがもっと簡単にできるとありがたいですね。」

先生の趣味はバイオリン。週1回、近くの音楽教室に10年以上も通っている。

「上達は望みません。楽しければいいんです」。ある時、演奏会で小さな患者さんとばったり会い気恥ずかしい心持ちになったとか。どんな音色だったのだろう。



東大和市南街
5-73-1
042-561-0359



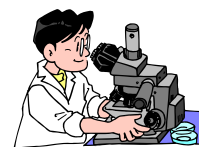
今号から、臨床検査についてのお話をします。

まず、話の前に病院のスタッフについて知ってもらわなければなりません。病院には診療を担当する医師の先生方を筆頭に、診療全般のサポートをする側近の看護師さんが中心にいます。そして、脇をかためるようにクラークさんがいて、さらにコメディカルと呼ばれる専門職としてのレントゲン技師さん、薬剤師さん、理学療法士さん、栄養士さんなど、そして我々のような臨床検査技師がいます。あまり聞いた事がないかも知れませんが、当院では病理・細胞検査技師もいます。これ以外にも受付や会計などを行う医療事務の方々や裏方役の色々なスタッフの方々が働いており、ひとつの病院が機能しているわけです。

ところで、なぜ臨床検査が必要なのでしょう。簡単に言ってしまうと、患者さまの身体の状態をより詳しく知る必要があるからです。診察だけではなかなか分からない部分、つまり身体の中で起きているさまざまな生化学的変化を一定の数値（基準値と呼ばれている値）を参考にして、その値より高いのか、あるいは低いのかを検査して異常を調べます。また、生理学的検査により身体機能に異常がないのかも判定します。こうして得られたさまざまな検査データを担当の先生方に知らせて治療に役立てて頂く訳です。この意味で、臨床検査は治療の上で必要不可欠な検査といえます。

ある本には臨床検査について以下のように記述されています。「臓器を工場と仮定すると血管は道路、生化学検査はそこを走るトラックの積荷を調べるようなもの。積荷を調べればその工場で作られた製品の量や完成度、あるいはどの工場が働かず、どの工場では作り過ぎているかといったことが工場を調べなくても分かる。また、ふだん通行していないはずの積荷を見つけて、どこで作られたものか調べれば、工場が壊されて運び出されたものかどうか分かる（患者さんに伝える臨床検査の説明マニュアル、医歯薬出版）」。実を射た話とは思われませんか。

あくまでも臨床検査は病気の程度を判断するためのデータです。他にレントゲン検査の結果とあわせて総合的に判断されます。施設ごとに検査の方法や試薬も異なるので、検査の結果は担当の先生方によく相談する事が大切です。また、年齢、性別、喫煙の有無、あるいは食事の有無などによっても検査データがかなり変わる事を知って頂きたいと思います。何か困った事や分からない事があれば、スタッフにどんどんご質問して頂いて構いません。何もわからないまま他人に大切な身体を任せてしまうほど、精神的な負担になる事はありませんから。



これで少し臨床検査の事が分かって頂けたでしょうか？

（臨床検査科 富沢公博）

編集後記

平成十年十一月に「大和会」意見箱」を設置して六年、その間に利用者さまから一二五〇件を超える貴重なご意見をいただきました。しかし、文章にして投書するエネルギーや抵抗感を思いますと、氷山の一角の感がします。そこで、身近に直接、皆さまの声をお聞きし、応答する「場」として「大和会モニター会議」を発足いたします。その目的は大和会諸施設（東大和病院・東大和ケアセンター）の質の点検・評価ならびに医療・福祉環境の向上、職員の接遇態度改善等のために、地域の皆さまの意見を傾聴し、信頼関係を築くとともに、開かれた大和会の達成に寄与するものです。

…これは、大和会モニター制度の実施にあたっての規約前文です。モニター制度を行っている病院はまだ数えるほどですが、当会では先月、十名のモニターの参加を得て「大和会モニター会議」をスタートしました。これからも、このモニター制度の実施を通して、より良い大和会の実現を目指してまいりますので、ご期待ください。また、モニター制度に関心のある方はお問い合わせいただければ幸いです。

（広報）

編集・発行 特定医療法人財団大和会 （院外広報誌 隔月発行）

〒207-0014 東京都東大和市南街1-13-12 TEL 042-562-1411 FAX 042-562-1399

ホームページ <http://www.yamatokai.or.jp>